

【理事会議事録】

日 時：2007年1月13日（土）11：00～16：30

場 所：国立天文台三鷹南研究棟1階大会議室

出席者：土佐，柴橋，園枝，花岡，高田，北本，田村，堂谷，和田，中本，渡部，比田井，高羽，嶋作，福田

欠席者：なし

他に旧理事として、祖父江，井上，黒田，杉山，関井，蜂巣，百瀬，田，成相，富田，浅田が出席した。また，東條事務長が出席した。

議事に先立ち，署名人を選出した。

議 長：土佐 誠

署名人：花岡庸一郎，高田唯史

報 告

- 前回議事録の確認
 - 資料1に基づいて花岡庶務理事より前回（2006年9月19日）理事会議事録が報告され，原案どおり承認された。
- 創立100周年記念関係
 - 祖父江前理事長，黒田前副理事長より100周年記念事業の活動の現状等について報告があった。 100年記念出版については第1巻が発売され，1月12日に東大構内で記者発表が行われたことが報告された。 100年史編纂については原稿が95パーセント分集まっており順調に進行しているとの報告があった。
 - 記念切手については2008年3月21日に発売開始予定であり，今後学会側窓口を決めて対応の予定である。
- 衛星設計コンテストについて
 - 席上配付資料に基づいて北本会計理事より説明がなされた。今まではオブザーバー的な参加であったが今回，共同主催依頼文が前理事長に届くことになり，依頼を受ける方向で検討中である旨報告された。
 - 実行委員，審査委員，企画委員計3名を出さねばならず，現在人選を進めている。今後も継続する上で委員選出方法は整備していく予定。 TENNETやジュニアセッション等を介しての紹介により，できるだけ多くの参加者を募る計画であることが紹介された。 共同主催による予算の分担や，本コンテストの予算規模，コンテストの中身のレベル，企画委員についてはそれなりの実務が要求されていること，等について議論がなされた後，共同主催として参加することについては了承された。 将来的にどのように取り組んでいくかは状況を見て判断することも申し添えられた。
- Asian-Pacific Journal WG からの報告
 - 席上配付資料に基づいて祖父江前理事長より説明があった。 学会関係者へのアンケートではPASJを維持することに回答者の8割が賛成しており，Asian-Pacific Journal (AsPJ) への早期の移行については消極的である点が報告された。 一方，AsPJとは別に中国とインドが中心となって新しい雑誌を刊行する計画があり，韓国もこれに参加を決めたとの報告がされた。 事態が流動的であるため，Asian-Pacific Journal WG については存続し，いつでも状況の変化に対応できるようにしておくことが提案され，了承された。 また上記現状をふまえ，学会としては当面PASJの強化に注力することが示された。
 - PASJの将来計画については掲載（投稿）論文を増加させるために国内外のGuest編集者による特集号や執筆の依頼，年会企画セッションと連携した特集の掲載，Invited Review の掲載を実行する計画であることが提案された。 電子版アクセスフリー化は既に実行済み。 科研費については出版補助だけでなく，学術誌データベースへの応募も始めた。
- logoの公募について
 - 北本会計理事より天文学会のlogo作成についての活動報告がなされた。 デザインの公募を天文月報1月号に載せたが，他の手段等も用いながら宣伝をもっとしっかりやる計画である。 審査員についてはデザイン専門家1名の方をお願いして本人から了承頂いた旨報告があった。 土佐理事長より正式な依頼状を出すことで話を進めており，謝礼についても旅費や審査料，デザインに関するアドバイスなどの名目で考慮中である。 選考委員会は4月末から5月初旬あたりで行う予定。 著作権等の問題（特にデザイン類似など）に対する対応はできているのかという質問に対しては，商標登録を考えており，ある程度のチェックは期待できるかもしれないが，それで全てに対処できるかは不明である旨回答があり，詳細調査をすることで了承された。 また，学会ホームページに公募の情報が載っていないことが指摘され，至急対応することになった。
- 学術交流費の「足切り額」の改訂
 - 花岡理事より賛助会員の会費に対して学生旅費の補助額が低めになってきているので，今まで2万円だった学術交流費の打ち切り額を1万5千円に設定したことが報告された。 今後の様子を見てまだ余裕があるようならば更に低めに設定することも考えることで了承された。
- その他
 - 講師派遣キャンペーンについて
 - 田前理事より現在までに派遣として3件が決定もしくは実行され，更に現在1件について調整中との報告があった。 当初の了解では5件程度までであるので，あと残り1件である。
 - 東アジア天文学会の日本開催について
 - 今年9月にEAMA（東アジア天文学会）が日本で開催される予定であり，天文学会にも共催依頼が来るはずであることが報告された。

議 題

- 新入会員の承認
 - 花岡庶務理事より資料2に基づいて新入会員の紹介があり，議論の後，入会を承認した。 合わせて退会者の報告があった。 なお，複数の前理事より正会員の資格についての規程について，今後考えて行かねばならないのではないかとの提案があり，年会の実行に支障をきたすような場合には対応を考えるべきであることも合わせて了解された。
- 2006年度事業報告書案
 - 花岡庶務理事より資料3に基づいて2006年度の事業報告案についての説明があった。 天文教材委員会の報告はもう少し詳細にすべきと指摘され，改訂文を富田前理事が作成することとなった。
 - 国内学術雑誌のPDF版を公開するJ-STAGEについてPASJや天文月報の対応に対して質問があり，PASJについては現状のところ何もアクションはとっておらず，天文月報については対象外であるので無関係であることが確認された。 上記，修正が必要な部分以外については原案通り承認された。
- 2006年度決算報告書案
 - 北本会計理事より資料4に基づいて2006年度の決算報告案について説明があった。 繰越額が少々大きくなってきており，それについての対応について質問がなされたが，いくつかの近い将来の大きな支出増加（具体的には100周年記念事業やPASJ月刊化など）が見込まれる要素があるので，数年くらいは繰越金を積極的に切り崩すことは考えていないとの説明があった。 徴収不能額について，徴収不能になった人数の情報が欲しいとの要求があり，調査して明記することで合意した。
 - 研究奨励賞の寄付金収入が0だが，寄付を募らなかつたのでなかったのではとの質問があり，2006年度は特に積極的には行わなかったことが示された。 寄付金の集め方（特に使用用途指定など）の扱いをどうするか議論が進んでいないので寄付を大々的に募っていない面もあるので，具体的な方針を固めていく必要があることが示された。
 - 100周年出版事業について，出版費を差し引いた後の旅費等も含めた予算について質問があり，今年度は多めに予算を組んでいるので問題なく，また，来年度以降の予算もある程度は見こんである旨会計理事より説明があった。 上記質疑応答の後，決算案を承認した。
- 2006年度監査報告
 - 花岡庶務理事より資料5に基づいて2007年1月6日に行われた監査について報告があり了承された。
- 2007年春季総会議題等
 - 花岡庶務理事より資料6に基づいて春季年会における総会の議案等についての説明があり了承された。
- 次回以降の年会について
 - 2007年春季年会について比田井年会開催理事より準備は順調な旨，口頭で報告があった。 ジュニアセッションについては地元の教育委員会の後援を依頼中，公開講演会については地元教育委員会をはじめ，新聞社等7社の後援が想定されている。
 - 天文教育フォーラムについては「どう教える新しい太陽系像-冥王星問題を発端に-」で講師3名，公開講演会については小柴，川村両氏を講師として予定している。
 - 春季年会に関連して特別レクチャーについて渡部天文教育理事より席上配付資料に基づいて説明があった。 学術審議会の惑星小委員会において3月下旬に冥王星の和名の正式名称決定があるので，それに呼応した形で行うという背景がある旨説明があった。 種々の議論の後，公開講演会に来た一般の方々に対しての冥王星に関する最新情報の提供をすることで天文学会としての説明責任を果たすことが必須との合意を得たので，講演の趣旨を「冥王星はどうなったか」ということにして講演者を1人にし，公開講演会に引き続き行う等の検討を今後早急に進めることとした。 詳細を天文月報（1月20日締め切り）に載せるように早急に対応する旨了承された。
 - 2007年秋季年会の準備状況について席上配付資料に基づき高羽年会開催理事より説明があった。 年会は9月26日～28日の開催で，会場は岐阜大学の9会場＋ポスター会場。 予備会場も含めて予約済みであり準備については順調である旨説明があった。
 - 2008年秋季年会について福田年会開催理事より口頭で説明があり，岡山理科大学において年会を9月11日～13日に開催を予定している旨説明があった。 14日に一般向け講演会を予定。 理事会としては了承し，日程の是非等の詳細を担当者間で更に少し詰めることとなった。
 - 2009年春季年会について大阪府立大学が候補している旨報告があり了承された。 窓口は現在は小川氏，春季年会なので日程は4日間になることは小川氏には伝達済み。
 - 2009年秋季年会について資料7に基づいて花岡庶務理事より説明があった。 石垣島から誘致があり，VERA観測所の本間氏の協力により年会を実行する上での問題点などが指摘された。 特に会場同士が 1 km 程度離れている，旅費，ポスターボードの確保が難しい等があげられた。 常勤で住んでいる人がいないので開催の調整等について不安が大きい面もあり，VERA観測所が受け持つというのであれば考慮の余地もあるのではないかとの意見が出され，とりあえず本間氏に確認し，今後の対応を決めることとした。
 - 中本年会理事よりプログラム委員会報告が口頭でなされた。 2007年春季年会については660講演で，受賞記念講演は林賞だけであり，奨励賞については秋季年会において行う方針であることが示された。 また，特別セッションは秋季はやらない方向で今後の原則スタイルとする旨報告があり了承された。
- 創立100周年記念年会について
 - 2008年春に行われる創立100周年記念年会の準備状況について嶋作年会開催理事より口頭で報告があり，柴橋副理事長より補足説明があった。 年会は3月24～27日の予定で代々木オリンピック記念青少年センターで行うことが確認された。
 - 公開講演会について，日本の天文学の歩みや天文学研究の紹介，未来の天文学研究などの内容で短めの講演で4～5人程度の講師を予定していることが示された。 また，科研費の申請は具体的な講演者や内容については記述せずに申請済みであること，場所は一橋記念講堂を押さえる予定である旨報告があった。 記念年会の中での開催でもあり，聴講者500人確保のためには宣伝費がかさむのではないかと懸念が指摘され，現在申請中の科研費の上限を超える可能性があることも合わせて紹介され，今後，それについてどのように対応していくかは理事会，担当者間で早急に詰める必要があることが合意された。
 - お金の使い方，工面の仕方については100周年行事に限らず，今後の年会の運用の仕方とも関係しているので，今後理事会等で議論をして行く必要があることが指摘された。 記念式典についてはまだ内容については白紙状態であり，理事会を中心として早急に内容の詰めを行って2008年度の予算に計上できるようにせねばならない。
 - これに関連して，年会の開催について世話人の負担が大きすぎるとの指摘が数多く出され，開催地のサポートを人的に行う等，負担を軽くする方法は色々とはあるので，今後年会運営方法については更に議論を深める必要があるとの認識のもとに，まずは近年の年会開催地理事経験者の方々の意見を百瀬前理事がまとめ，今後理事会等で議論しながらより良い方向性を探ることとなった。
- 日本天文学会事務処理規程及び日本天文学会経理規程
 - 資料8及び9に基づいて，日本天文学会の事務処理規程及び経理規程の内容が北本会計理事より提案された。
 - 近年の監査において事務処理規程，経理規程の欠如が指摘されており，また，公益法人が所轄省庁の管理下を出て自治体の管理下へ近い将来入ることが予想されているが，それに伴って規制の強化が想定されている。 更には研究成果公開促進費の給付の条件としても経理規程の整備が学振から求められている等の諸般の背景から，早急に事務規程及び経理規程を定める必要があることが紹介され，提案については了承された。
 - なお，研究成果公開促進費に伴う出版社との契約は毎年更新なのかとの質問があり，今後はある額を超えると入札を毎年しなければならないのかとの危惧もあるので会計の方で要調査となった。
- 年会中の役員・委員の旅費について
 - 席上配布資料に基づいて北本会計理事より年会中の役員・委員の旅費について説明があった。 年会運営に関して必須である役職者には学会から実費相当額の旅費支給が可能である旨が示された。 注意点として，使用することが必然という訳ではなく，他に旅費確保の見込みがないなどの場合にに限られるという点である。 原案には副理事長について記述がないとの指摘がありその点を加算することで了承となった。
- その他
 - PASJ 編集委員会から三つの提案
 - PASJ 編集委員会からの3つの提案について蜂巣前理事から資料10に基づいて説明があった。 電子版アクセス制限の解除について，100周年記念の一環で1年間フリーにし，1年後については状況を見てまた考えるという提案があり了承された。
 - 掲載料単価の適用条件における正会員についての掲載料割引について，筆頭著者だけでなく著者に正会員が入っているという規程に変更することが提案され了承された。 特集号企画の中で，外国人が筆頭著者の論文が相当数あったことが本提案の発端。
 - 論文賞の副賞について，更なる投稿（掲載）を促進するために論文賞受賞者に対して次論文（新規論文一編のみ）の掲載料を無料にすることが提案された。承された。
 - 学会事務員等について
 - 花岡庶務理事より学会事務のうち総務担当2人が年末に辞職し，その他にも全体として人手が不足していることが口頭で説明された。 また，資料11に基づいて和田月報理事より月報担当の編集者が1人しかいないため，円滑な運用のために人的な補充を申請したい旨報告があった。 特に経理等の人員不足は深刻なので，早急に人員の補充を行うべく事務と実務理事の間で条件等をまとめ，募集をかけることが提案され，了承された。 また年会対応のマンパワーも不足しているが，年会運営の方法についても工夫が必要である旨あわせて確認された。
 - 学術会議の「太陽系天体の名称等に関する検討小委員会」からの提案
 - 花岡庶務理事から学術会議の「太陽系天体の名称等に関する検討小委員会」から冥王星の和文名，太陽系の定義等についてのまとまった情報が近日中に示されるのに伴って，関連学会によるパブリックコメントが求められていることが報告された。 TENNETで情報を流して意見を聞くことで対応する旨提案があり了承された。
 - 国際天文年についての学会での取り組み
 - 渡部教育理事より2009年の国際天文年について，天文学会としての取り組みはどうなっているのかについて質問があり，取り組みについては学術会議では少し話が出ているが，国連でまだ承認されていない事項なので，話が先に進んでいないのではとのコメントがあった。

次回の日程は春季年会中。 次々回の日程は6月30日（土）11時～と決定された。（場所は未定）

2007年2月11日

議 長 土佐 誠

署名人 花岡庸一郎

署名人 高田 唯史